○年○組　社会科授業デザインシート　「○○○○○○○」　○月○日（○）　授業者：○○○○　授業場所：○○教室

単元に係る児童の実態

単元のゴール

・江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解する。
・「鎖国などの幕府の対外政策と対外関係」については、オランダ、中国との交易のほか、朝鮮との交流や琉球の役割、北方との交易をしていたアイヌについて取りあげ、アイヌの文化についても触れていく。単元を通して、幕府と藩による支配について、その支配の下に大きな戦乱のない時期を迎えたことなどに気付く。
・対大名、対民衆、対諸外国、対日本周辺地域という視点から江戸幕府の思惑を整理し、江戸幕府はどのような社会を作ろうとして江戸時代初期の政策を行ったのか、まとめることができる。

「主体的な学び」に向けて

主体的な学びについては、生徒が学習課題を把握し、その解決への見通しを持つことが必要である。そのためには、単元等を通した学習過程の中で動機付けや方向付けを重視するとともに、学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定し、生徒の表現を促すようにすることが重要である。

「対話的な学び」に向けて

対話的な学びについては、「社会的な見方・考え方」を働かせる中で、社会科ならではの「問い」として設定され、社会的事象に関わる課題を追究したり解決したりする活動が取り入れられることによって実現することできる。

「深い学び」に向けて

「社会的な見方・考え方」を用いた考察、説明、議論等の学習活動が組み込まれた課題を追究したり、解決したりする活動が不可欠である。追究の視点と、それを生かした課題（問い）の設定、諸資料等を基にした多面的・多角的な考察ができるように学習を設計することが求められる。本単元では、「単元を貫く学習課題」を設定し、その課題を追究しながら学習を進められるよう単元計画に工夫をした。

歴史的な「見方・考え方」を働かせること

この時代における特色を、諸事象の比較に関わる視点、背景、原因、結果、影響など事象相互のつながりに関わる視点などに着目して捉え、比較したり、関連させたりして社会的事象を捉えたりすることで、時代の転換の様子や各時代の特色を考察できるようにする。

単元計画

○本時の学習課題	◆各時間終了後の児童の姿
単元を貫く学習課題「なせ、江戸時代（幕府）は２６０年以上も続いたのだろう」	
１時間目 ○「江戸幕府は大名をどのように支配しようとしたのだろう」	◆幕府が大名を統制するとともに、その領内の政治の責任を大名に負わせたことに気付くことができる。
２時間目 ○「江戸幕府は人々をどのように支配しようとしたのだろう」	◆それぞれの身分の中で人々が職分を果たしたこと、人口の多数を占めた農民が、村を生活の基盤として農作業などで助け合いながら暮らしていたこと、農村が幕府や藩の経済を支えていたことに気付くことができる。
３時間目 ○「江戸幕府は世界とどのように付き合おうとしたのだろう」	◆17 世紀初めの活発な貿易に触れるとともに、海外渡航を禁止したり、貿易船を制限したりするなど、のちに鎖国と呼ばれた幕府の政策に、キリスト教の禁止、外交関係と海外情報の統制、大名の統制などの面があったことに気付くことができる。
４時間目 ○「鎖国後の日本は世界とどのように付き合おうとしたのだろう」	◆長崎での「オランダ、中国との交易」対馬を通しての「朝鮮との交流」、中国との関わりにおける「琉球の役割」、蝦夷地においてアイヌの人々が、海産物など「北方との交易をしていた」ことなどについて扱い、統制の中にも交易や交流が見られたことに気付くことができる。
５時間目 ○「江戸幕府はどのような社会を作ろうとして江戸時代初期の政策を行ったのだろう」	◆①対大名、②対民衆、③対諸外国、④対日本周辺地域という視点を与えて考察できる。 ◆それぞれの視点から江戸幕府の思惑を整理し、「～な世の中をつくるため」という形式でまとめることができる。

授業デザイン（3／5）

前時の概要

江戸幕府により全国を支配する仕組みが作られた。身分制と農村の様子については、それぞれの身分の中で人々が職分を果たしたこと、人口の多数を占めた農民が村を生活の基盤として農作業などで助け合いながら暮らしていたこと、農村が幕府や藩の経済を支えていたことを学んだ。

本時の目標　なぜ、江戸幕府は貿易やキリスト教を制限したのだろう。

家康は対外政策においてどのような方針をとったのだろう。

資料から読み取れたこと

限られた場所で、限られた国との貿易(＝鎖国)

なぜ、貿易をする場所を長崎の出島だけにしたのだろう。

生徒の考え

オランダと中国が貿易をできた理由のまとめ

＜鎖国までの流れ＞
朱印船貿易
→東南アジアに日本町

キリスト教の流行
幕府の対応→禁教令
島原天草一揆
→貿易、宗教の制限

鎖国の完成

今後の展開

長崎での「オランダ、中国との交易」、対馬を通しての「朝鮮との交流」、中国との関わりにおける「琉球の役割」、蝦夷地においてアイヌの人々が、海産物など「北方との交易をしていた」ことなどについて扱い、統制の中にも交易や交流が見られたことに気付くことができるようにする。

主体的・対話的で深い学びに向けて

主体的な学びに向けて

- 単元を貫く課題を設定し、課題解決型学習を取り入れる。
- 一人一人の考えを引き出す工夫として問いに対する理由を付けて考えを発表させたり、ノートに書かせたりする。
- ふり返りに新たな問いや疑問、調べたいことを書く。

対話的な学びに向けて

- グループ活動、意見交流によって、多様な情報や考えを収集したり、自分にはない異なる考えに気付かせたりする。自分の考えを広げ、深める活動になる。

深い学びに向けて

- 貿易が認められた長崎の位置関係を歴史的な見方・考え方を働かせ、考察させる。
- 本時のまとめを、単元を貫く学習課題に結びつけることで単元を通した深い学びに近づける。

本時の流れ（授業スタンダード）

目標・ねらいの提示

「なぜ、江戸時代(幕府)は260年以上も続いたのだろう」という単元を貫く課題を確認し、本時の授業が江戸幕府の対外関係について学習する時間であることを伝え、本時の授業の見通しを示す。

本時の学習課題
なぜ、江戸幕府は貿易やキリスト教を制限したのだろう。

自分で考える活動

江戸幕府の対外政策への予想

①織田信長、豊臣秀吉のとってきた対外政策と比較し、徳川家康が行った政策を予想しよう。

【歴史的な見方・考え方】類似・差異

・それまでの時代との類似や差異という見方・考え方を働かせる。

仲間と学び合う活動

江戸幕府の対外政策の事実

②『寛文長崎図屏風』を読み取ろう

それまでの時代と違って、**限られた場所で、限られた国しか貿易**が出来なかった（＝鎖国）。

■指導上の留意点

・資料の船が掲げている国旗などに着目するよう気づかせる。

発問

③なぜ、貿易をする場所を長崎の出島だけにしたのだろう。

資料『寛文長崎図屏風』

【歴史的な見方・考え方】原因結果

・南蛮貿易の時代との類似や差異、江戸からの距離などという見方・考え方を働かせる。

活動

・小グループや学級全体で③の歴史的な見方・考え方を働かせて、意見交換する。

■指導上の留意点

・既習事項である南蛮貿易での長崎の役割や江戸からの距離などを手がかりとして示す。

学んだことを実感（まとめ）

授業の最後の5分間で自己評価カードにふり返りの文章を個人で記入する。

＜まとめの例＞

江戸幕府は始め、朱印船貿易を認め、東南アジア各地には日本町ができた。しかし、その結果、幕府の支配の仕組みと合わないキリスト教がより国内に広まった。そこで、海外渡航の禁止、貿易船の制限、踏み絵、禁教令などを行い、鎖国と呼ばれる政策をとっていった。鎖国は全ての海外との関わりを閉鎖したわけではなく、キリスト教を日本国内に入れないために貿易国や貿易地を制限した政策であることがわかった。鎖国政策により、幕府の国内への支配力はより一層高まり、幕府が長続きする要因にもなった。

深い学びに向けて